

授業科目名	子ども家庭福祉	担当教員名	山下 智佳子
必修/選択	必修(保育士資格/社会福祉主事任用資格)	開講学年・学期	3年 後期(年間開講数 1講座)
科目区分	保育に関する科目	単位数	2単位(30時間)
施行規則に定める科目区分等	保育の本質・目的の理解に関する科目(別表1)	授業方法/担当形態	講義 / 単独
		特記事項	※「児童福祉論」の指導内容を含む
授業の到達目標	子ども家庭福祉、子どもの権利擁護、子育て支援を一環したテーマとして、以下の5点を到達目標とする。 1.現代社会における子ども家庭福祉の意義、子ども家庭福祉の一分野としての保育について説明ができる。 2.現代社会における子どもに関する諸問題について主体的に考えることができる。 3.子ども家庭福祉の歴史の変遷を説明できる。 4.子ども家庭福祉の制度や実施体系等を踏まえ、子ども家庭福祉の現状と課題を説明することができる。 5.子どもの権利擁護について、自分の考えを述べることができる。 (1)現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する。 (2)子どもの人権擁護について理解する。 (3)子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。 (4)子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。 (5)子ども家庭福祉の動向と展望について理解する		
授業の概要	子ども家庭福祉の理念を理解し、子どもの権利擁護について学習する。 子ども家庭福祉にかかる法体系や制度・施策について学ぶ。 特に、子育て支援や子ども虐待などに焦点をあて、子ども家庭福祉の現状と課題について理解を深める。		
テキスト	「子ども家庭福祉入門」芝野松次郎・新川泰弘・宮野安治・山川宏和 編著, 2020, ミネルヴァ書房		
参考書・参考資料等	授業内で適宜紹介、配付する。		
成績評価の方法	授業参加態度: 20% / ミニレポート: 30% / 授業内小テスト: 50%		
授業計画	授業の内容	到達目標番号	
第1回	オリエンテーション 保育と子ども家庭福祉	1	
第2回	現代社会と子ども家庭福祉	2	
第3回	子ども家庭福祉の理念と専門職	1・4	
第4回	子ども家庭福祉の展開	3	
第5回	子どもの権利擁護	2・5	
第6回	子ども家庭福祉の法体系	4	
第7回	子ども家庭福祉の制度・事業	4	
第8回	小テスト 子ども家庭福祉の実施体制	4	
第9回	子ども家庭福祉に関連する施設 社会的養護	2・4・5	
第10回	子ども家庭福祉の現状と課題(障がいのある子どもへの支援)	2・4・5	
第11回	子ども家庭福祉の現状と課題(心理的な治療を必要とする子どもへの支援・非行防止・健全育成)	2・4・5	
第12回	子ども家庭福祉の現状と課題(地域子育て支援・保育サービス・母子保健)	2・4・5	
第13回	子ども家庭福祉の現状と課題(子ども虐待)	2・4・5	
第14回	子ども家庭福祉の現状と課題(DVの現状と対策、ひとり親家庭支援、新しい社会的養育ビジョン)	2・4・5	
第15回	小テスト 子ども家庭福祉援助活動 まとめ	1・2・5	
定期試験	定期試験は実施しない		